

## 博士學位論文審査要旨

氏 名	白 井 正 子
学 位 の 種 類	博士（歴史民俗資料学）
学 位 記 番 号	博甲第 269 号
学位授与の日付	2020 年 9 月 30 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文の題目	長床の研究 —その歴史的展開と祭祀空間—
論文審査委員	主査 神奈川大学 教授 佐 野 賢 治 副査 神奈川大学 教授 前 田 禎 彦 副査 神奈川大学 特任教授 昆 政 明 副査 元東京芸術大学 客員教授 日 塔 和 彦

## 【論文内容の要旨】

日本の各時代、各地域の社寺建築の上で登場する「長床」は、従来、拝殿の一バリエーションと考えられてきた。その要因として、明治初期の神仏判然令、神仏分離の宗教政策の強制の影響により、長床が神社において主にその位置関係から本殿に対する拝殿と認識されてきたことにある。しかし、社寺に伝わる古地図や山内図、また現在における民俗祭礼における建築物としての長床の位置や役割から、長床が拝殿の一形態であるとは直ちに首肯できない。本論文は、長床を社寺建築史というハード面と祭礼の場になるなどのソフト、民俗的な側面を合わせて分析することにより、多様性を示す長床の建築物としての本来的な姿、役割を、第Ⅰ部長床の歴史的な展開、第Ⅱ部長床の民俗的な展開の再編成、に序章と終章を加えた論文構成で考察する。

### 序章

1. 研究対象 (1) 平面形から分類した長床の特質 (2) 長床の祭祀空間と研究方法
2. 研究方法 建築学的アプローチ (1) 寺社建築に宮寺と僧房からの発達 (2) 神仏習合の神社本殿と拝殿 (3) 古記録が示す本殿と拝殿 (4) 長床の呼称（長床は人々が呼ぶ通称：隠れた名称） (5) 建築の空間 (6) 長床の建物が表している象徴性 (7) 朝廷の儀式にみえる祭祀空間 (8) 長床の祭祀空間 (9) 拝殿の前身 (10) 拝殿と長床との相違 (11) 寺院の礼堂と神社の礼殿との相違 (12) 中世の仏堂の形態 (13) 神仏分離期に神社の拝殿となって解体を遁れた建物 (14) 寺社に建てられた法会の建物と長床 民俗学的アプローチ (15) 宗教と民俗信仰 はじめに 熊野信仰及び八幡信仰について 修験道について 中世荘園・惣村から祭祀組織まとめに
3. 先行研究 (1) 長床の見方の例 (2) 長床の定義

### 第Ⅰ部 長床の歴史的な展開

#### 第一章 長床の起源—時代より分類 I 期

##### 1. 熊野信仰

- 1-1. 紀伊の熊野大社 (1) 紀伊の熊野三所権現から熊野本宮大社の長床 (2) 『梁塵秘抄口

伝集』に表れた「長床」(3) 熊野本宮古図(享保御造営建物総図) (4) 熊野本宮古図(嘉永御造営建物総図)

1-2. 出雲の熊野大社 神道系の熊野神社

1-3. 南陽市の宮内熊野大社 山岳信仰と熊野信仰との結び付き

1-4. 喜多方市の新宮熊野神社長床

2. 高野山と丹生都比売神社 (1) 高野山の山内図 (2) 高野山と天野社 (3) 古代の年中行事と天野社の大庵室 (4) 丹生都比売神社と天野社の長床・小庵室

3. 比叡山の根本中堂 (1) 根本中堂(最澄と創立から焼失及び再建等) (2) 比叡山の行事について時代区分 (3) 年中行事から根本中堂で行う法会儀礼 (4) 天台宗と真言宗の密教空間 (5) 密教建築空間への考察

4. 蓮華王院の法会 (1) 天台宗・真言院の灌頂堂 (2) 真言宗の伝法灌頂 (3) 栄花(栄華)物語に記された院家の御堂 (4) 蓮華王院の本堂(三十三間堂・国宝)の修正会 (5) 蓮華王院本堂の祭祀空間 (6) 蓮華王院本堂で举行された修正会の状況、『勘仲記』から (7) 再び、蓮華王院本堂の祭祀空間

5. 八幡宮の建築と形式に内在する曖昧性 宇佐八幡宮と八幡神社 (1) 八幡神として祭神を祀る神社 (2) 八幡は宇佐神宮からはじまる (3) 八幡宮の創建と八幡神系譜の流れをもとに本論文が関わる寺社 (4) 若狭神宮寺と八幡神社 (5) 手向山八幡宮の礼殿 (6) 弥勒伽藍(宇佐八幡神宮寺) (7) 応永三十四年頃廻廊に囲まれた宇佐八幡宮の上宮社 (8) 現在の宇佐神宮社殿

6. 神宮寺の創建 六国史を中心に神宮寺の建立

6-1. 往馬大社(生駒大社・往馬座伊古麻比古神社) (1) 往馬大社の祭神 (2) 神殿の造営記録 (3) 往馬大明神と神宮寺との関連 (4) 往馬大社の宮座 (5) 生駒曼荼羅図に描かれた神社 (6) “生駒の火祭り” 宮座は保存会で

7. 山岳信仰と修験による建築への影響 (1) 近畿地方の社寺 (2) 東北地方の社寺 (3) 関東地方の社寺 (4) 中国地方の社寺 (5) 九州地方の社寺

## 第二章 広がる長床の起源と萌芽—時代より分類 II 期

1. 熊野信仰 宮城県名取市内の熊野本宮、熊野新宮、熊野那智社、名取市内に長床の在る神社=佐倍之神社(道祖神社)、増田神社、秋保神社

2. 八幡宮の建築 仙台市の大崎八幡宮 仙台市大崎八幡宮長床 仙台市周辺のその他の神社

3. 仙台市の薬師寺(旧国分寺)と境内白山宮

4. 塩釜神社の古絵図 古絵図から長床の変容

5. 北野天満宮の権現造

6. 上鴨川住吉神社の長床 上鴨川住吉神社の社殿と宮座と長床

7. 櫛引八幡宮の旧拝殿・長所

## 第三章 僧房の建築

1. 僧房の変化から長床へ発展

1-1. 法隆寺の創立は仏像を造立、造頭して祀る

2. 寺院の僧房に顕れた宗教建築

2-0. 法隆寺に建つ僧房の状況

2-1. 東室(国宝)と聖霊院(国宝) 2-1 a. 創建時の東室(僧房)について平面から観察

- 2－1 b.聖霊院は聖徳太子の影像を安置する院（堂）
- 2－2．妻室（重要文化財）
- 2－3．食堂（国宝）と細殿（重要文化財）
- 2－4．西室（国宝）と三経院（国宝）
- 2－5．僧房の間取り、床は土間か板敷か　2－5 a.僧房の間取りの使われ方
- 2－6．僧房の変化を観察
- 2－7．僧房の改修への変化は民間信仰の場へと発展
- 2－8．僧房の変化から発達した長床の考察

#### 第四章　馬道がある長床

- 1．馬道（通路）を設けた長床
- 2．僧房から変化の拝殿に古式を伝える
- 3．浄土寺境内の八幡神社　（1）浄土寺（国宝）　（2）境内の八幡神社本殿と拝殿　（3）東大寺に鎮守八幡宮を建立　（4）東大寺總供養が行われる。供養式にみる廻廊は長床立（建つ）　考察

#### 第五章　山岳宗教史にみる修験の長床と庶民信仰

- （1）熊野路を歩む庶民の熊野詣　（2）萬年草に記された金峯山信仰　（3）飯豊山を仰ぎみる庶民信仰　（4）天野両方会雑記の十月会と六月会　（5）熊野権現金剛藏王宝殿造功日記の記録に表れた礼殿と長床　（6）長床由縁興廢伝（抄）に記された長床の造立　むすび

#### 第六章　社寺の歴史と民俗の祭祀

- 1．熊野信仰
- 2．神宮寺
- 3．国分寺
- 4．高野山と鎮守社丹生比売神社
- 5．八幡信仰
- 6．平安時代の修正会に顕れた仏堂
- 7．中世荘園・惣村の祭祀組織（北陸地方と近畿地方）
- 8．北野天満宮の権現造
- 9．古記録から
- 10．山岳信仰と修験と社寺
- 11．地方に興隆した拝殿と長床

#### 第Ⅱ部　長床の民俗的な展開の再編成—現代社会における長床の実例

- 1．福井県三方郡美浜町日向区の稻荷神社の祭祀組織
- 2．福井県三方郡美浜町宮代の彌美神社の祭祀組織
- 3．福井県小浜市下根来　八幡神社長床
- 4．秋田藩鉾山開発に古図から院内銀山町の金山神社長床
- 5．山形県南陽市　宮内熊野大社
- 6．山形県米沢市　成島八幡神社
- 7．山形県鶴岡市　金峯神社

8. 宮城県気仙沼市 羽田神社

9. 大阪府堺市 櫻井神社 事例の九神社についてまとめ 祭祀にみる長床と民俗

## 終章—本論の結果と今後の課題

1. 建築の時代と長床との関連性の概要 【建立年代表】
2. 長床の興起と諸相
3. 本研究の結果
4. 長床の祭祀にみる民俗信仰の展開 結論 今後の課題

巻末には、典拠史料と参考文献を付す。

現役の一級建築士でもある著者が、「長床」の調査・研究に取り組んだ動機は、長床がどのような建築物かとの素朴な疑問からで、各地方の社寺境内、その近辺に存在する長床を現地に訪ね、平面プランを描き、関係者に聞き書きし、また民俗行事に参加、その一方、関係する史資料にあたる調査行を重ねるうちに、長年月に涉って変容しながら「長床」が維持されてきたのは、長床が庶民の生活にエネルギーを与える場であることを実感し、民俗学的視点、成果も取り入れ、纏めたという本論文は、建築学と民俗学の二つの学問的アプローチの合一をその立場とする。

第Ⅰ部では長床建築の具象性に注目し、平面形からその特質を通時的に見、現段階での長床の歴史を概観し、【建立年代区分表】を示した。その上で、長床の発生から現代までを三段階に大きくグルーピング。第一グループは、神仏習合思想と長床の関係を、熊野三大社の造営、天台・真言の密教建築の宗教空間、八幡宮の建築様式、神宮寺の創建、山岳修験と長床、と熊野信仰の展開を中心に長床の系譜を文献、図像資料から読み解く。第二グループは、長床の地方展開とその性格を論じた。寺院の僧房の間取りからの長床への展開で、僧侶と庶民とが連携する建築空間として現れる。信仰の場としての住房の性格は、馬道のある割拝殿にみられるように持続した。修験の床堅の儀式は長床で行なわれ、また、飯豊山など霊山の古絵図等に描かれる長床は、庶民の山岳登拝の折の籠り小屋でもあった。第3グループは、現代社会における長床で、その儀礼、行事の実例を民俗宗教誌的記述で論じた。福井県若狭地方で行われる、王の舞のように、中世の神社の祭祀組織を継承した祭礼は、氏子圏に伝承された特殊神事と民俗芸能からなり、長床を中心に繰り広げられる。長床にみる民俗儀礼、信仰行事については、社寺建築の展開を踏まえ、民俗側での用いられ方と機能性の観察を通して第Ⅱ部で遡及的に考え、言及する。

第Ⅱ部では、長床に関係し現在も行われている祭祀など民俗行事の性格とその背景を全国9例の長床の現地での詳細な民俗調査に基づき考察する。東大寺二月堂修二会のお水取りに先立つ、お水送り行事は、若狭神宮寺と関わる集落の神社に建つ長床、講坊で集落の人（講衆・堂衆）により行われる。山形県南陽市宮内熊野大社は天台宗が指導的立場で纏めていた一山寺院で、宗派の複雑な組織で構成されていたが、明治初期の神仏分離により神社となった。祭祀は六供衆に受け継がれ獅子祭りが長床を祭場にして始まり、頭取が獅子冠をそこに収めて終わる。長床が信仰・祭祀の場でなく、慰労の場になっていた例もある。鉾山開発を藩事業として行っていた近世秋田藩の院内銀山の鉾山守護神、金山神社境内の長床では、神楽の他に相撲などの興行を呼んで鉾夫達の楽しむ場となっていた様子が古図に描かれている。神社の長床が、村の集会所になっている事例は現在でも多い。このような事例から、聖・俗の間を結ぶ建築空間としての長床は、社寺の祭祀とも関わり、住民、民俗サイドから見れば、その時代に最もふさわしい信仰的空間として利・活用されてきたことが指摘できた。

本研究の結果、平面プランの特徴から長床タイプを10パターンに分け、長床の系譜、性格から

大きく3分類を提示、長床が神仏習合思想の建築的表れであることを踏まえ、その正面性は拝殿とは異なること、長床は僧房の変化から展開したと考えられること、長床は村落社会の必要に応じた信仰的空間として提供されてきたことなど、長床が拝殿とは異なる用途と機能性を保有してきた独特な建築空間であることを明らかにした。

## 【論文審査の結果の要旨】

本論文は、従来、社寺建築において、拝殿の一類型として位置づけられてきた長床を、神仏習合思想が建築物を通して具体的に顕現した空間、表象であることを建築史的事例から跡づけ、さらにその構築された空間の性格を、そこで執行される祭祀をはじめとする民俗伝承から分析し、ハード面である建築物とソフト面である民俗儀礼との融合関係として意味付け、長床を日本の神仏交渉史において生み出された建築物、建築空間として新たに定位させた功績はなによりも大きい。また、現職の一級建築士でもある著者が平面図を自ら描くなど現地でのフィールドワークに従事する中で、建築史的な史資料論に加え、住民の長床に対する思い入れ、心意の重要性に気づき、民俗学的アプローチを併行して採用したことも、文意に反映しており、好い意味で論文の性格として現れていることを一言しておきたい。ただし、体裁的な面から言えば本論文は大部な著作であるため、それぞれの調査の報告内容とそれに基づく多様な考察は高く評価できるが、記述や論述に繰り返しが見られた。文章を整理し、構成を直して流れを作れば、より説得力のある論旨としての一貫性が発揮できたと思われる。

本論文の評価すべき点は、長床の発生を神仏習合思想に求めたこと、その展開が熊野信仰に深く関係すること、長床は神・人、宗教者・村人、聖と俗が介在する空間であること、と大きく指摘したことにより、長床を思想・宗教者・村人の連環から考える必要性を提示したといえる。そこから、さまざまな質疑が出てくる。建築物以外で「長床」が登場する古文献があり、農具では長床犁がある。床は寝床や非土間を指すのか、まず「床」の字義を明確にしておく必要がある。八幡信仰は神宮寺の発現には当初から結びつき、長床も伴う。熊野信仰と八幡信仰の関係をどう考えたらよいのか。江戸期以降、長床の分布は羽黒派修験の進出に関係するのか、東北地方の新山（深山・真山）神社の境内に多い。修験の在村活動が知りたい。さらに、長床と民家における床の間の関係である。東北地方では、床の間は文字通り、村外から訪れる山伏などを招き泊める場所との伝承が聞ける。張台構えで一段高い床の間は民家にあっては聖なる空間であり、直接的な関係はないにしても、心意的には共通性があり、加えて、山岳登拝の折の行屋など村持ちの寺社ではなく、家持の聖なる小屋の存在も分布するからである。

以上のように、内容的にさらに補い、深化させるべき点、また言及の欲しい点、などがあるものの、長床の通時的な時代性の発現と当該時代の地域社会における民俗学的位置付けを豊富な具体的事例で記述、分析し、その展開と現代的意味を論じた本論文は、社寺建築史のみならず、民俗学界においても多大な寄与をなす労作といえる。また、建築遺構、文書史料、民俗資料の総合的な扱いも歴史民俗資料学の論文として高く評価できる。さらに、口頭試問において著者に更なる質問も試みたがいずれも相応しい応答であった。その結果も合わせ、白井正子氏に博士（歴史民俗資料学）の学位を授与することがふさわしいものと審査員一同これを認めるものである。